

銀漢亭日録



伊藤伊那男

8月12日(土) ▼午後、「夕焼け酒場」にて、「第七回 銀漢亭の日」四十数名来てくださる。三輪初子、村上綱彦・礼奈一家、加茂一行さん……。清人さんが鯉、海鞘、つぶ貝などの気仙沼物を。私は四品ほど。るぴちゃんの「森伊蔵」一升瓶は庄巻。三句出し句会。

13日(日) ▼二日前から扁桃腺が腫れており、昨日から抗生物質服用。今日は少し気急ぐ、休養の日。

14日(月)、15日(火) ▼「銀漢」十月号の選句に入る。終日家。

16日(水) ▼午後、宮澤と下高井戸を散策。東急世田谷線は久々。「皇庭餃子房」で昼飲み。その下の「鮮魚三友」はいい魚屋。鮎十一匹(あるだけ)、かますの干物五枚。岩牡蠣三箇などを買う。帰宅してそのまま酒盛りに。とっておきのイタリアの泡物二本空ける。

17日(木) ▼「あ・ん・ど・うクリニック」、薬局。十八時、神保町ひまわり館にて「銀漢句会」。あと近くの中華店にて親睦会。

18日(金)、19日(土) ▼十月号の選句稿。朽木直、大溝妙子、有賀理さんに送る。数句会の選句。

20日(日) ▼「彗星集」の選句選評を理恵さんに送り、十月号終了。「三丁目の夕日」の「昭和の歳時記」のエッセイ、政さんへ送る。到来の茗荷山盛りの薄切りを卵とじ。鯛の兜と牛蒡の炊き合せ。

21日(月) ▼伶輔君、桃子の二人、インフルエンザ。隔離。俳人協会の「新鋭俳句賞」の選考に入る。八十四編あり。

(昔は蕎麦屋だったが経営者が替わった)でおでん、肉豆腐で酒盛り。親父さんが俳句に興味ありとて十六時過ぎ迄歓談。

30日(水) ▼講演の下調べなど。一昨日から桃子夫婦、伶ちゃん白山登山。石川県の広告の映画撮影。

31日(木) ▼九時のバスにて伊香保温泉。三回目か。石段を上まで登り、露天風呂に浸る。十五時、「ホテル天坊」へ。「第二十八回夢二忌俳句大会」の選考。前夜祭の五句出し句会。「銀漢」から五人活躍！宴会での陶句郎さんの女装は凄みあり。あと部屋で小酌。

9月1日(金) ▼「ホテル天坊」の湯は透明。石段街は茶色の違いあり。今日も快晴。「銀漢」三人がこちらへ向かっている。九時、バスにて榛名湖畔の夢二のアトリエ、花野吟行、松虫草、女郎花などふんだん。戻って三句出し句会。パネルデイスカッションなど。十六時終了後、清人車にて一斗、政、井蛙、麦で嬪恋村へ。「野ひろう」にて柴山つぐ子さん句集『つまこひ』の祝いの会。北軽井沢句会から九人来て下さる。宇内さん経営のロッジ「梟」泊。

2日(土) ▼九時半、柴山つぐ子家へ。朝食を準備して下さる。山崎ちづ子、佐藤栄子さんの心尽しの料理沢山。また、野菜、菓子などの土産を持ちきれない程用意して下さる。昼、出発。麦さん希望の妙義神社を参拝。北朝霞駅にて解散。雑用多数。

3日(日) ▼来週の伊那の「千両千両井月さんまつり」の小講演の準備。レジメ一枚作る。「銀漢」十月号の校正作業。

4日(月)、5日(火)、6日(水) ▼ずっと家。松山の講演会の準備、調布の俳句講話の準備など。終日机にへばり付いている。三日間酒抜く。

7日(木) ▼少々、気になる事あり、「あ・ん・ど・うクリニック」。血液検査など。

22日(火) ▼十一時、下北沢の喫茶店にて「NHK俳句」の浦川聡子さんと来年二月号の「復活銀漢亭」の企画打ち合わせ。積もる話もあり。十四時、神保町ひまわり館。「萩句会」の選句。四方山話など。あと武田編集長と餃子屋で小酌。松山、奈良の旅の打合せなど。

23日(水) ▼鯛の兜煮の煮汁で卵の花。焼きそばも作っておく。甲子園大会、慶応高校優勝！

24日(木) ▼到来の玉蜀黍十五本、ラップしてレンジに。十一時発行所。九月号の発送を手伝う。日本橋に出て「三菱倉庫・江戸橋歴史展示ギャラリー」を訪ねる。あとスタバで作句、読書。銀座へ歩く。途中、鈴木真砂女の「卯波」跡を探してみる。ビルの一角に「幸福荷」が祀られてあり、多分、その辺り。十七時、「銀座ライオンビル」の「かこいや」。気仙沼の畠山重篤先生上京とて、清人さんの提唱で囲む会。十数名。大島の一砂さんも来られる。あと清水旭峰先生の馴染みの店「花組」に八人ほどで二次会。

25日(金) ▼終日家。調べ物など。作句も。

26日(土) ▼十一時、日本橋「日本料理 吉」、「饅句会」九人。あと五人で小酌。喫茶店で読書あと、十六時過ぎ、杏一家が高円寺の阿波踊を毎年、見物しており、席を取ってあるからと誘ってくれる。十七時から二十時迄、次々に練り歩く。新宿で小酌して帰る。

27日(日)、28日(月) ▼T氏、M氏の句集稿点検、返却。調布の俳句講話の下調べ。江戸時代の俳人達について。家族出払っている。

29日(火) ▼十時、北村皆雄監督の新宿の事務所に伊那の「千両千両井月さんまつり」の打合せ。盤水先生の命日。十四時、高幡不動の墓前に清人さんと待ち合わせて墓参。あといつものうどん屋

8日(金) ▼昼前の中央高速バスにて伊那へ。伊那部宿などを散策。十七時過ぎ、「門・やません」。伊那の守屋明、坂下昭、中山中さん、有賀理、谷口いづみ、伊藤政、堀切克洋、北村監督、平沢、宮下、今泉さんばらばらと集い歓談。高校同期で「湯島句会」の生みの親、「銀漢」発足時に支援してくれた松崎道彦(文和)君逝去の報受く。「伊那パークホテル」泊。

9日(土) ▼九時、「いなつせ」の楽屋で同人で伊那中央病院副院長の中山中さんが携帯用の超音波検査機で検査してくれる。胆管に異常あり。シンポジウムなど終えてバスにて帰京。途中、会員の清水旭峰医師と連絡を取ると、順天堂医院の夜間緊急外来へ直行されたしと。二十一時過ぎに入り、夜中二時位まで検査。清水先生、最後まで付き添って下さる。

10日(日) ▼日曜日にて病院は静か。桃子が着替えなど持ってきてくれるが、面会は不可。数句会の選句や来週の予定のキャンセルの連絡など。

11日(月) ▼担当医師団三先生と挨拶。採血他。超音波検査。十一月号の原稿を、まほ、理恵、飛露さんに送る。

12日(火) ▼絶食。MRI、内視鏡検査。

13日(水) ▼昨日の内視鏡検査で胆汁を通してくれた。レントゲン検査。昼ごはん有難ういただく。

14日(木) ▼肺活量の検査。身体の色味が落ちてきている。

15日(金) ▼「豊年や吾は老残の黄金仏」

15日(金) ▼採血。負荷心電図検査。ORIX時代の部下から電話あり。皆が一度、私を囲んで同窓会をしたいが都合はどうか？と。こんな時に不思議である。三十五年前の部下達。二十七人の大部隊であった。(検査入院終了し退院へ)